

## 「2015年西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学工学部4年 仲宗根 響

2015年9/14から9/28まで西安交通大学サマースクールに参加させていただきました。私は今年の2月に台湾へ行ったこともあって、中国語や中国の文化を持ち、このプログラムに応募しました。

西安交通大学では現地の日本語学科の先生が中国語を教えてくださいました。京都大学からのプログラム参加者は7人で、それぞれの中国語のレベルはバラバラだったのですが、先生は難易度の異なった例文を用意してくださるなど、私たち全員が多くのことを学べるよう工夫して授業をして下さいました。私はそれまで、ほとんど独学で中国語を勉強していたのですが、先生の授業は大変わかりやすく、短期間で非常に多くのことを学べたと感じています。昨日何をしたか、日本と何が違ったかなどの何気ない会話を授業の最初に行い、そこで中国語を使って話すことで、どのような表現が正しいのか、中国ではこんな言い回しがあるなどと自然に「生きた」中国語を学んでいけたことが何よりも価値のある経験でした。プログラムの期間は2週間ということもあって、本格的に学ぶことはできませんでしたが、これから学習を何倍にも加速してくれたと感じています。

中国語の学習もそうでしたが、やはり現地の学生と交流できたことがこのプログラムに参加した意義があったと思います。現地で私たちをサポートしてくれた学生のボランティアは皆親切で、大学までの付添や案内などだけでなく、観光地でのガイドの方の通訳や自由時間にカラオケに連れて行ってくれるなど、私たちを丁寧にもてなしてくれました。個人的には移動のバスの中で一緒に中国の歌を歌ったことが、最もお互いに打ち解け交流できたと感じています。

2週間中国にいて感じたことは、中国は良くも悪くも「あつかましさ」があるということ。街中では常にクラクションの音が聞こえ、車は横断歩道を渡ろうとする歩行者などお構いなしに目の前ぎりぎりを通り過ぎていきます。バスの中でもみんな大声で話し、携帯電話で通話している人もいます。それらは他人のことを考えていないととらえることもできますが、中国の人は単純に自分のしたいことをしているだけと私は考えます。公園では男性・女性関係なく中高年を中心に500人ほどの人が卓球やバドミントン、水を使った習字、中国ゴマを楽しみ、音楽をかけて社交ダンスをしている人までいました。日本では見るできない光景でしたが、おそらく彼らは日本人のように他人の目を気にせず、自分のやりたいことを純粋に楽しんでいるのだと思います。一度公園を歩いていると、60歳ぐらいのおばさんから一緒に卓球をやらないかと誘われました。そのときは断ってしまったのですが、今思えば一緒に卓球をした方がいい経験ができたなと後悔しています。他人がどう思うかというのを気にせず、ただ一緒に楽しかったらいいじゃないかというのが彼らの考えなのだと思います。だから「一緒に楽しむ」ということに熱心で、その意味で学生のボランティアも公園で遊んでいる中高年も同じなのかなと感じました。日本人と中国人とどちらの性格が良いというわけではありませんが、中国人の「あつかましさ」を日本人はもう少し理解したほうがいいのかと思います。車はもう少し歩行者に気を使った方がいいとは思いますが。